

J-34

時のモノサシ
-時間を象る学生都市-
Time scales
- Shape of the time at students city-

佐藤信治², ○齋藤大輔¹
Daisuke Saito¹, *Shinji Sato²

With a decrease in the 18-year-old population, multiplied by the survival of the university movement is accelerating. Greeted by the acceleration of demographic aging, the population of 18 years and the number of positions at the University will be equal to the 2006 era "enter" all. Although few, cases that have gone bankrupt by its students not gather in 2009 is pleased to announce the hiring freeze until the four-year university in addition to a number of junior college. There is a need to review the role of universities in modern times there is a situation that the number of universities increased by more than 100 schools in 10 years on the other hand.

1. はじめに

18歳人口の減少に伴い、大学の生き残りをかけた動きが加速している。少子高齢化の進行により、平成18年に大学の募集人数と18歳の人口が同数となる「全入時代」を迎えた。そのことにより、学生が集まらずに倒産しているという例は少ないものの、2009年には短期大学に加えて数多くの4年生大学まで募集停止を発表している。一方で大学数は10年間で100校以上増えるという現状があり現代における大学のあり方を見直す必要がある。

しかし、2001年に工場等制限法が廃止されるとともに少子化による入学志願者の獲得競争に打ち勝つため都心でのキャンパス展開が進んでいる。

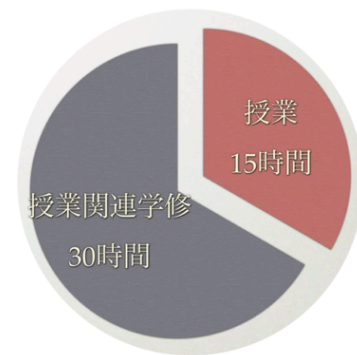


Table 1. University students' life style

2. 設計趣旨

本計画では、現代における大学施設のあり方として、東京都墨田区のスカイツリーが落とす影を利用した大学施設の点在的な更新手法を提案する。



Figure 1. Sky Tree's shadow

また、大学の教育システムは単位制度を採用し、1単位につき45時間相当の学修が定められているが実際の授業は15時間程度であり、残りの30時間(学期中に換算すると8時間/1日)は専門書等による事前学修という主体的な学びにあてることが定められている。大学生の活動時間を8.2時間とした場合、授業関連の学修時間は4.6時間で残りの3.6時間はアルバイトやサークル等の時間にあてられているのが現状である。

3. 計画背景

3-1. 大学

高等教育機関として存在する大学は、1960年代以降、工場等制限法の適用によって都心部でのキャンパス建設が困難になり郊外へ転出していった。

3-2. 墨田区とスカイツリー

墨田区は2012年5月に電波塔兼観光施設として高さ634mの東京スカイツリーを開業させ、注目を集めている。その流れから、墨田区は2011年9月に東京スカイツリー近くの廃校になった小中学校に大学誘致計画を

1 : 日大理工・学部・海建、Department of Oceanic Architecture & Engineering, CST.,Nihon-U.

2 : 日大理工・教員・海建、Department of Oceanic Architecture & Engineering, CST.,Nihon-U.

公表した。しかし、7 法人の応募があったにも関わらず墨田区は当初設定した条件を十分に満たす法人がなかったとして計画は見送りとなった。現在、大学が存在しない区は 23 区の中でも墨田区のみであり、歴史的なものづくり文化がある墨田区にとって大学誘致は必須項目であるといえる。

4. 計画敷地

計画地は、東京を流れる河川周辺になる。都市の中に点在し、ひとつの大学が複数の小規模な敷地を有する。東京都墨田区にある高さ 634m の東京スカイツリーが落とす影と河川の合流点を中心に 6 の計画地を選定する。主な合流地点として台東区と墨田区を分ける隅田川や江東区の荒川河川敷、秋葉原の神田川周辺などがある。

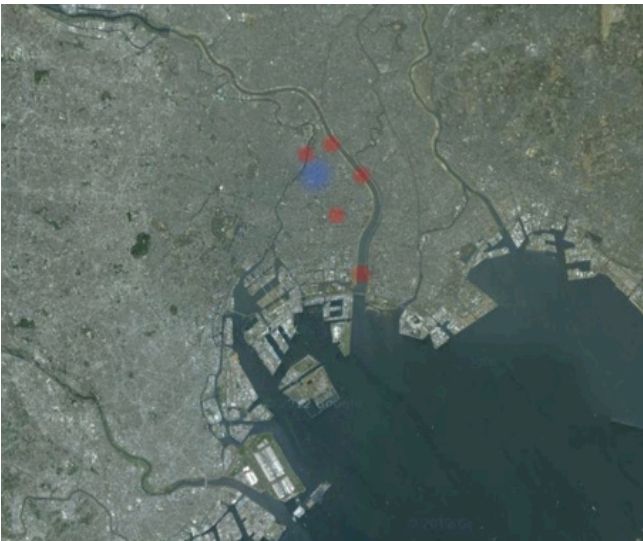


Figure2.Diagram

5. 基本計画

大学施設の規模を縮小し、小規模な施設を点在化させる。キャンパスは広くなり、施設は小さくなる。その形に合わせた教育システムを同時に提案することで、新しい高等教育の可能性を見出す。

5-1. アニミズム^[1] 的ダイアグラムによる配置計画

スカイツリーが歴史に根付く為の働きとして、スカイツリー(人工物)が落とす影(自然物)を配置のダイアグラムとする。その配置がスカイツリーの影を具現化し、スカイツリーの存在を象る。大学ごとにキャンパスを配置し、その中で移動する大学の既存の教育システムとは異なり都市を1つのキャンパスと見立て影が落ちた先で学生のアクティビティが生まれる。木陰に人が集まり交流するような形式である。

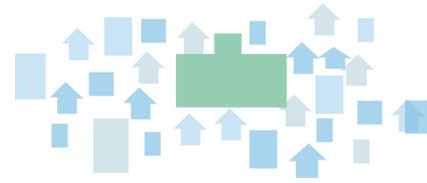


Figure3.Gathering meeting assembly

5-2. 街のコンテクストをうつす鏡

影が及ぶ範囲は広く、それぞれの街にとっても重要な役割を果たす。街の歴史や風景を反映させた施設を意識することでその街の顔となるような大学施設が生まれる。

5-3. シティヤードとしての地域貢献施設

一敷地内に詰め込まれる既存の集合形式とすると都市の中の庭のような存在を点在させることで地域内での関わりを強く持たせ大学施設本来の役割である地域貢献を強く根付かせたシティヤードとしての集合形式を提案する。都市に庭のような隙間が点在することで適度な間隔配置を可能とし、木造密集市街地における減災施設としての役割を持たせる。

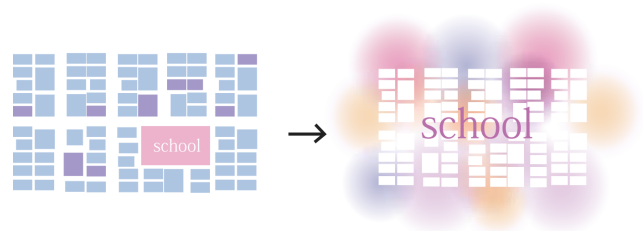


Figure4.City yard

5. 注釈

[1] 生物・無機物を問わないすべてのものの中に靈魂、もしくは霊が宿っているという考え方。

6. 参考文献

- [1] いまからのキャンパスづくり—大学の将来戦略のためのキャンパス計画とマネジメント, 日本建築学会, 2011.11
- [2] 時計の針はなぜ右回りなのか, 織田一郎, 2012.8.
- [3] アニミズム周辺紀行 1, 石山修武, 2011.10
- [4] アニミズム周辺紀行 2, 石山修武, 2011.12
- [5] アニミズム周辺紀行 3, 石山修武, 2012.02
- [6] アニミズム周辺紀行 4, 石山修武, 2012.03
- [7] アニミズム周辺紀行 5, 石山修武, 2012.05
- [8] シブヤ大学の教科書, シブヤ大学, 2007.09
- [9] 江戸の川 東京の川, 鈴木理生, 2001.07